

“大人になったらもう1回聞きたい”

大石田小学校6年生が議会を傍聴



12月定例会5日目に、大石田小学校6年生36人が議会を傍聴しました。少し緊張した面持ちでしたが、熱心にメモをとり議論に耳を傾けていました。紙面の都合上10名の感想をご紹介します。



町議会では、村形議員さんの質問に、町長さんや教育長さんがすぐに手を挙げて意見を言っていました。私たちは、質問されてもそんなふうには答えていないので、見習いたいです。また、議会というのは、大石田町をさらに暮らしやすい町にするため意見を出し合っている場だということがよく分かりました。学校でいうと、全校生がルールを守って仲良く過ごす方法を話し合っている姿だと思えます。議会を見学し、よりよい生活のためには、話し合いが必要だと感じました。

工藤 美優

最初、身近にある時計のことを真剣に話し合っていました。二番目は雇用を増やすことについて、三番目は60周年を祝うことについての話し合いでした。みなさん熱心に話し合っていました。何よりも大石田町を大切に考えてくれていることが嬉しかったです。話し合いを聞いてみると、学級の話し合いや、児童会総会に似ていると思いました。私たちもたくさん話し合うことがあるので、もっと意見を出し合って真剣に話し合わなければならぬと思いました。

茂木 優依

本会議を傍聴して、特に興味深かったのが、企業誘致の話です。確かに大石田町にも工業団地があります。そこで部品関係の仕事をしているのが母です。前に母は、工場拡大のことを話していました。工場が拡大すると雇用も増えるので、「雇用創出と企業誘致」についての話し合いが、ぼくには身近に感じられました。もし、大石田町に新しい会社がある話があったら、僕は賛成します。働きたいと思う人が、働ける場があることはとても大切なことだからです。

三浦 優羽

激しい議論にドキドキ!



町議会では大石田町のこれからのことについて村形議員さんが質問をして話し合いが進んでいきました。先生は身近なことを話していると聞いていましたが、やっぱりちょっと難しかったです。でも、暮らしやすい大石田町をつくるためにどうしたらいいか、みんな一生懸命考えていることはよく分かりました。だから、大人になったら、もう一回聞ききたいという気持ちになりました。

加納 妃菜

これからの大石田町をどうするかを決める大事な話し合いが、町議会だと分かりました。本会議に出席していた方たちは町民のことを考え、安心して住みよい町をつくることや、私たち子どもの教育について意見を戦わせていました。公共施設の時計のことや、雇用を増やすことについて真剣に話し合いを進めていました。私たちのことをこんなに考えてくれることを感謝したいです。そしてこれからも安心して暮らせる大石田町をつくってほしいと思います。

村形 しずな

町議会を初めて見学して、大石田町は小さい町だけれど、たくさん問題があることを知りました。話し合いを聞いていると、その問題を一気に解決することは難しいようです。例えば、大石田小学校の時計は、すぐに直せるのかなと思っていましたが、それにはお金がかかるので直せなかったということでした。町を良くしていくためにはたくさんのお金がかかることを知り、大変なんだなと思いました。町の問題は、これから少しずつ解決できたらいいと思いました。

阿部 太一

質問に対して答える人は、自分から素早く手を挙げて考えを話していました。それを聞いてまた意見を言い、どうすれば町の人が豊かに楽しく暮らせるか、みんなのためにどうすればいいかを、意見を出し合いながら、一緒に考えていることが分かりました。町のことを考える仲間でも、意見がぶつかり合うこともあるんだなと思いました。教育長さんから「夢を持ってほしい」という言葉を聞いて、私はちゃんと夢を持って歩んでいける人になりたいと思いました。

石山 聖彰

町議会の本会議を傍聴して、何のために議会を開くのが分かった。町をよりよいものにするため、1人1時間の持ち時間で質問して、それに答弁するというかたちで話し合いが進められていた。全ては、町のため町民のために、町長さんをはじめ、教育長さん、議員さんなどたくさんの方々が真剣に話し合っているのだ。その姿を見ては、大石田町の子どものためにも嬉しかった。そして、自分も将来この大石田町に貢献できる大人になりたいと心から思った。

鈴木 尚也

桂桜公園で遊ぶとき時計がなくて不便だなと思っていたので、設置してもらったことに感謝しています。大石田小学校の時計は、なぜ直さないのだろうと思いましたが39万4千円もかかることを聞いて、仕方がないと納得しました。議会では質問と意見が活発に出されていました。学校の委員会のときには議会をお手本にして意見や質問がたくさん出るようにしたいです。私は、教育長さんとおっしゃった「夢を持つこと」ができた方がいいなと思いました。

伊藤 凜

議会が始まった瞬間、議場にいるみなさんが真剣な目になり、胸を張って堂々と話し合う姿に私は驚きました。村形議員さんが質問をしたときに、町長さんや教育長さんがすぐに答えていて、また質問が出されるとまた答えていて、私はすごいと思いつつ見えていました。そして、教育長さんの言葉が心に残りました。「夢を持ち努力してほしい。感動は人生をドラマにする。」という言葉です。とてもすてきなこのメッセージを忘れず、夢に向かってがんばりたいと思いました。二藤部 瑠璃